研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-190		17-064	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Comparison of different approaches for estimating age-specific alcohol-attributable mortality: The cases of France and Finland.

年齢別アルコール関連死亡率の推定法の比較：フランスおよびフィンランドにおける検討

執筆者

Trias-Llimós S, Martikainen P, Mäkelä P, Janssen F

掲載誌

PLoS One. 2018 Mar 22;13(3):e0194478. doi: 10.1371/journal.pone.0194478.

キーワード	PMID
アルコール関連疾患、推定死亡率、寄与割合	29566081

要　旨

目的：

アルコール関連疾患による死亡率および年齢別死亡率を正確に推定することは、医療政策上、重要である。しかし、アルコール関連死亡率は、推定方法により結果が異なり、年齢別に比較することが難しい。本研究では、様々な推定法を用いたアルコール関連死亡率を比較することを目的とした。

方法：

フランス（2010 年)およびフィンランド（2013 年)におけるアルコール関連死亡率を以下の 8 つの方法にて推定した。死因データを用いた方法として、1）アルコールが直接起因した疾患（アルコール性多発ニューロパチー、アルコール性心筋症、アルコール性肝疾患等), 2) 肝硬変，3）アルコールと肝硬変が直接起因した疾患（アルコール性肝疾患など)，4) European Health for All Database definition (HFA-DB)に基づいたアルコール関連疾患(食道がん、咽頭がんなど), 5）アルコールが直接的および間接的に起因した疾患の 5 つの疾患を対象とした死亡率を算出した。また、寄与割合について、1）従来の方法, 2）アルコールの心疾患に対する保護作用を除いた方法，3）アルコール量を連続量として用いた方法の 3 つの方法にてアルコール関連死亡率を算出した。

結果：

両国ともに、寄与割合を用いた推定死亡率およびアルコールが直接的または間接的に関連した疾患の推定死亡率は、他の方法により推定した死亡率の約 2 倍高かった。HFA-DB に基づいた方法以外で推定した年齢別死亡率は、性別や国に関わらず同じパターンで、65 歳あたりまで増加し、65 歳以上で減少した。

結論：

寄与割合を用いてアルコール関連疾患死亡率を推定するなどの詳細な推定方法は、正確なアルコール関連疾患死亡率を示し得る。アルコール関連疾患死亡率推定の信頼性を高めるためには、高齢者におけるデータの質を改善する必要があると考えられる。